

## 日本 EU 議員会議

### 吉野正芳復興大臣の発言

(2018年5月9日於：衆第1国際会議室)

こんにちは。復興大臣の吉野正芳です。  
本日は、このような貴重な機会をいただき、  
誠にありがとうございます。

今日お伝えしたいことは、3つです。

1つは、東日本大震災からの復興は、着実に進んでいるということ。

2つ目は、日本の食品は安全であるということ。

3つ目は、多くの欧州の方に、東北に来てもらいたい、  
食を食べていただきたい、ということです。

#### 1. (2011年3月11日に起きたこと)

2011年3月11日の東日本大震災では、岩手、宮城、  
福島をはじめとする東北地方沿岸部が、津波による大きな  
被害を受けました。

同時に、原子力発電所の事故も発生し、福島県を中心に  
大きな被害が出ました。

私の自宅は福島県いわき市にあります。やはり津波によって  
損壊しています。

## 2. (外国・国際機関からの支援への感謝)

発災直後から現在に至るまで、欧州の国々をはじめ、160を超える国・地域や国際機関から様々な形でご支援をいただきました。

私も含め、被災地の人々は、こうした支援があったからこそ、前に進むことができました。

あらためて感謝を申し上げます。

## 3. (復興のいま)

復興は着実に進んでおります。被災地のインフラはほぼ復旧しており、ピーク時に47万人いた避難者数は、今では6万人台となっています。

## 4. (原子力災害からの復興)

東京電力福島第一原発の事故直後、放射性物質の飛散により、原発の周辺11の自治体に避難指示が出されました。

現在は除染や減衰、自然要因により、東京電力福島第一原発から80キロ圏内の空間線量率は、2011年11月と比べて、約74%減少しています。

福島県の県面積は、パリ市の130倍ほどです。

このうち、原発事故による避難指示が出ているのは、パリ市の3.5倍ほどの、370平方キロメートルです。福島県の大部分では、通常の生活が営まれています。

これは、空間線量率の世界の各都市との比較です。  
福島県内の主要な市の数値が、世界の多くの都市と大きく変わらないことがわかります。  
東京電力福島第一原発から50キロ圏内のマイホームタウン、いわき市の空間線量率は、ベルリンやパリとほぼ同じです。

## 5. (風評払拭)

被災地の復興、特に福島県の復興を進める上で、原発事故による風評の払拭が一番大きな問題です。

日本の農林水産物は、放射性物質に関する徹底した検査と、これに基づく生産・流通管理の徹底により、安全が確保されています。

また、日本の食品の放射性物質の基準は、世界で最も厳しい水準となっています。なお、検査により基準値超過が確認された場合は、市場に流通しないよう必要な措置がとられております。

日本における基準値は、1キログラムあたり100ベクレルの検査値を超えた一般食品は、流通させない、というものです。EUは1キログラムあたり1,250ベクレルの上限を設定しています。

日本産の食品中に含まれる放射性物質について、例えば野菜類、お茶、畜産物は、2013年度以降の5年間の検査で、基準値を超えたものはありません。

また、福島県産の米は、2015年産米以降は、基準値を超過したものはありません。

福島県産の海産物についても、福島県が試験操業とその調査を行っています。その結果、2015年4月以降は基準値を超える割合がゼロとなっています。

また、日本の食品モニタリングに関しては、IAEAやFAOからも適切であると評価されています。

福島県は、安全でおいしい食べ物の産地です。特に桃が有名です。今日は、皆さんに福島県産の桃ジュースを用意させていただきました。コーヒーブレイクの際に、味わってほしいと思います。

欧州にいる消費者の方々にも味わってほしいと思っており、昨年12月にEUが輸入規制の緩和をおこなったことに感謝いたします。

## 6. (東北訪問の誘い)

東北地方は、自然、歴史遺産、食や日本酒など魅力が沢山あります。

2019年のラグビーワールドカップは、岩手県の釜石市で開催されます。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会では、野球・ソフトボールが福島県、サッカーが宮城県で開催されます。

こうした機会に、多くの欧州の方々に東北を訪問いただき、魅力を感じてほしいです。

復興の姿を知り、地域や食の魅力を楽しんで下さることは、復興を進める支援にもなります。

欧州議会の方々にも、機会をとらえて、東北を訪れていただければと願っております。

本日はありがとうございました。

(了)